



発行日：令和8年3月13日

発行：進路指導係

少しずつ暖かい日が増え、春の訪れを感じる季節となりました。保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動、とりわけ進路指導へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度も残りわずかとなりました。今月号では、「中学部・高等部進路講話」「障害支援区分認定について」「今年度の進路指導の振り返り」の3点についてお知らせいたします。



① 中学部・高等部進路講話について

2月27日(金)に、中学部・高等部合同の進路講話を実施しました。今回は、サンクスラボ名護オフィスに勤務されている佐藤裕太さんを講師としてお招きし、ご自身の経験や働くことについてのお話をいただきました。佐藤さんは国頭村出身で名桜大学を卒業後、A型事業所の利用や一般就労支援サービスを活用しながら、現在の仕事に就かれました。講話では、これまでの経験を振り返りながら、障害と向き合いながら働くことについて具体的にお話してくださいました。A型事業所では、企業リストの作成やメール送信などの営業代行、AI文章の修正などの業務に取り組んだそうです。その経験を通して、生活リズムが整ったことや、働いてお金を得る達成感、仕事に対する責任感を学び、「一般就労に挑戦したい」という気持ちが芽生えたと話されていました。また、障害者雇用の面接では、必ずといってよいほど「障害によって苦手なこと」「必要な配慮」「自分で行っている対策」「現在の体調や出勤状況」などを聞かれることが多いそうです。そのため、自分自身をよく理解し、事前に準備しておくことの大切さについてもお話がありました。講話の中では、お金についての現実的なお話もありました。例えば、手取り15万円程度で一人暮らしをした場合、家賃や光熱費、車の維持費、通信費などの支出で、生活費がほとんど残らない場合もあるというお話でした。そのため、進路を決める際には、焦らずに生活のことも含めてよく考えることが大切だということをお話いただきました。さらに、社会に出て必要な力として、「報告・連絡・相談」「時間を守ること」「協力する力」「失敗から学ぶ力」などが挙げられました。これらの力は特別なものではなく、授業や委員会活動、部活動、友達との活動など、日々の学校生活の中で自然と身につけている力であるというお話もありました。最後に佐藤さんから、生徒たちへ「一般就労と障害者雇用に上下はない」「焦らなくてよい」「分からないことがあればまず相談してほしい」「自分がなりたい姿に向かって挑戦してほしい」という温かいメッセージをいただきました。生徒や職員からも「具体的にいい話が聞けてよかった」との感想が多くありました。生徒たちにとって、働くことや将来の生活について具体的に考える良い機会となりました。



② 障害支援区分認定について

高等部3年生の生徒は、卒業後の進路に向けて様々な準備を進めています。その中で重要な手続きの一つが「障害支援区分認定」です。18歳を迎えると、現在使用している受給者証は「障害児」から「障害者」へと切り替える必要があります。その際に行う手続きが区分認定です。区分認定では、市役所の福祉課の職員が家庭訪問を行い、日常生活の様子や支援の必要性などについての質問項目に答える調査が行われます。その内容をもとに審査が行われ、障害支援区分が認定されます。この区分認定は、特に生活介護事業所を利用する場合には必須となります。一方で、就労継続支援B型事業所やA型事業所、就労移行支援事業所、一般就労の場合には必ずしも必要とはされていません。しかし、生活介護を利用する場合は、この区分認定を受けて初めて福祉サービスの利用が可能となります。手続きの流れとしては、市役所への申請後、聞き取り調査や医師の意見書などをもとに審査が行われます。認定までには一定の期間が必要となるため、卒業後の利用開始に間に合うよう、早めに手続きを進めていくことが大切です。申請の流れや詳しい内容については、学校から配布している「進路の手引き」(下記にリンクがあります)に掲載されていますので、ぜひ一度ご確認ください。ご不明な点がございましたら、学校までお気軽にご相談ください。



③ 今年度の進路指導を振り返って

今年度の進路指導では、一般就労を目指す生徒の進路について考える機会が多くありました。企業見学や就業体験、進路講話などを通して、生徒たちは働くことについて理解を深め、自分の将来について考える経験を積むことができました。また、保護者の皆さまには、PTA進路講話をはじめとする多くの進路に関する活動にご参加いただきありがとうございました。学校と保護者が一緒に進路について考えることができ、大変有意義な時間となりました。私たち教職員にとっても、保護者の皆さまと意見交換をする中で、多くのことを学ばせていただきました。進路は、生徒一人一人の希望や生活の状況、支援の必要性などを踏まえて考えていく大切なものです。そのためには、学校だけでなく、保護者の皆さま、福祉機関、就労支援機関など、多くの関係者が連携して支えていくことが重要になります。来年度も、見学や実習、進路学習などを通して、生徒たちが自分の将来について考える機会を大切にしていきたいと思います。子どもたちが自分らしい進路を実現できるよう、学校としても引き続き取り組んでまいります。今後とも、子どもたちの進路について保護者の皆さまと一緒に考えながら支援していきたいと思いますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



【進路関係資料】

①進路指導の手引き



②進路指導に関する問い合わせ



③福祉サービス事業所一覧

